

令和5年度決算の概況【水道事業会計】

1 業務実績等

- ①有収水量は、商業用、工場用については増加したものの、家庭用、公用・学校用で減少し、全体としては前年比0.9%の減少となりました。
- ②給水戸数は、家庭用が増加したことなどにより増加しました。
- ③給水人口は、横ばいです。

	R5 A	R4 B	増減(A-B) 比率(A/B)	備 考
配水量(千m3)	39,114	39,305	△ 190 99.5%	
一日平均(千m3)	107	108	△ 1 99.2%	
① 有収水量(千m3)	37,458	37,801	△ 343 99.1%	
一日平均(千m3)	102	104	△ 1 98.8%	
② 給水戸数(千戸)	163	161	1 100.9%	
③ 給水人口(千人)	343	343	0 99.9%	
@供給単価(円/m3) (給水収益／給水量)	157.7	157.5	0.2 100.1%	
@給水原価(円/m3) ([@維持管理費+@資本費]／給水量)	157.2	140.2	17.0 112.2%	
うち@維持管理費(円/m3) (維持管理費／給水量)	86.8	76.9	9.9 112.9%	
うち@資本費(円/m3) ([減価償却費等+利息-長前]／給水量)	70.4	63.3	7.1 111.3%	

令和5年度に実施した主な事業

- ・送配水管布設工事(水明一丁目、花園町ほか)(R5事業費:203百万円)
- ・老朽鋳鉄管布設替事業(真野四丁目ほか)(R5事業費:112百万円)
- ・老朽鋳鉄管布設替事業(松山町ほか、皇子が丘一丁目)(R5事業費:389百万円)
- ・膳所平尾配水池更新改良事業(R5事業費:106百万円)
- ・瀬田配水池更新改良事業(R5事業費:64百万円)

令和5年度決算の概況【水道事業会計】

2 比較損益計算書

減収減益

①維持管理費や資産減耗費など営業費用が大きく増加し、給水収益も減少したことから、営業利益は赤字となりました。

②加入金や長期前受金戻入などの営業外収益が減少したものの、経常利益は黒字となりました。

③以上のことから本年度は、前年度より645百万円少ない336百万円の純利益となりました。

	R5 A	R4 B	増減額 A-B	備 考
営業収益	5,985	6,026	△ 41	
給水収益	5,905	5,954	△ 49	有収水量△0.9% 供給単価+0.2円/㎡
受託工事収益	17	16	1	
その他	63	56	7	
営業費用	6,390	5,802	588	
維持管理費	3,071	2,746	325	浄水場運転管理費の増
減価償却費	2,783	2,662	121	柳が崎浄水場整備改良工事による減価償却費の増
資産減耗費	519	377	142	比良浄水場にかかる固定資産除却費の増
受託工事費用	17	17	0	
① 営業利益(損失は△)	△ 405	224	△ 629	
営業外収益	1,061	1,068	△ 7	
加入金	185	213	△ 28	
他会計負担金	17	18	△ 1	児童手当・企業債利息繰入金
長期前受金戻入	737	744	△ 7	
雑収益など	122	93	29	
営業外費用	321	304	17	
支払利息	241	258	△ 17	
雑支出	80	46	34	不用品売却原価の増 +21
② 経常利益(損失は△)	335	988	△ 653	
特別利益	1	0	1	
特別損失	0	7	△ 7	
③ 当年度純利益(損失は△)	336	981	△ 645	
前年度繰越利益金 (その他未処分利益剰余金変動額)	0	0	0	
当年度未処分利益(未処理欠損は△)	336	981	△ 645	

令和5年度決算の概況【水道事業会計】

〔単位：百万円〕

3 比較貸借対照表

- ①自己資本比率は、0.2pt増加し、56.4%となりました。
- ②流動比率は、現金預金（流動資産）の増加により、19.9pt増加し、204.6%となりました。
- ③事業収益対企業債残高比率は、企業債残高が増加したことから、7.1pt増加し、262.3%となりました。

	R5 A	R4 B	増減額 A-B	備 考
資産の部				
固定資産	62,484	62,765	△ 281	
有形固定資産	62,270	62,528	△ 258	
帳簿価額	124,661	123,957	704	構築物+1,215 機械装置△485 車両運搬具△9 工具器具備品+11 ほか
償却累計	△ 64,439	△ 62,606	△ 1,833	
建設仮勘定	2,048	1,177	871	改良工事費 +770 ほか
無形固定資産	208	231	△ 23	
投資その他の資産	6	6	0	
流動資産	6,127	5,268	859	
現金預金	5,301	4,379	922	R5企業債借入 1,579 R4企業債借入 859
未収金（正味残高）	796	855	△ 59	
未収金	804	863	△ 59	未収消費税還付金△118
貸倒引当金	△ 8	△ 8	0	
貯蔵品等	30	34	△ 4	
資産合計額	68,611	68,033	578	
負債の部				
固定負債	15,135	14,803	332	
企業債	14,417	14,116	301	借入：1,579.0
引当金	718	687	31	退職給付引当金の増
流動負債	2,995	2,852	143	
企業債	1,279	1,266	13	
未払金・未払費用	1,399	1,412	△ 13	期末未払（未払工事費：530、未払物件費：608ほか）
前受金	218	82	136	
引当金	58	57	1	
その他	41	35	6	
繰延収益	11,800	12,149	△ 349	
長期前受金	32,085	31,864	221	
収益化累計	△ 20,285	△ 19,715	△ 570	
負債合計額	29,930	29,804	126	
資本の部				
資本金	37,326	36,228	1,098	
資本金	37,326	36,228	1,098	前年度利益処分 743 減債積立取崩 238 出資金 117
剰余金	1,355	2,001	△ 646	
資本剰余金	811	811	0	
利益剰余金	544	1,190	△ 646	
積立金	208	209	△ 1	
当年度未処分利益	336	981	△ 645	
資本合計額	38,681	38,229	452	
負債・資本合計額	68,611	68,033	578	

企業債残高
R05 157億円
R04 154億円

	指 標	R5	R4	増減	指標の説明
①	自己資本比率	56.4%	56.2%	0.2%	総資本のうち自己資本の占める割合を示し、比率は高いほど経営の安定性は大きい。
②	流 動 比 率	204.6%	184.7%	19.9%	短期の支払い能力を示す指標。比率は100%以上が望ましい。
③	事業収益対企業債残高比率	262.3%	255.2%	7.1%	借金が収入の規模に見合っているのかを図る指標。過度に高い場合は将来世代の負担が高まっている可能性があります。

令和5年度決算の概況【水道事業会計】

〔単位：百万円〕

4 剰余金の処分

①繰延収益相当額を自己資本金に組み入れます。

当年度末未処分利益剰余金	336
利益剰余金処分額	
① 条例第4条の5による処分額	△ 336
自己資本金組入（繰延収益相当額）	△ 336
処分後残高（繰越利益剰余金）	0

5 キャッシュ・フロー計算書

☆業務C/F(2,995百万円)から、投資C/F(2,502百万円)を差し引いた金額がプラス(+493百万円)となっており、本業で投資を賄っている状態です。
資金については、期首より期末が増加しています。このことは企業債による収入が企業債の償還による支出を上回ったためです。

	R5 A	R4 B	増減額 A-B	備考
1 業務活動によるキャッシュ・フロー	2,995	3,081	△ 86	
2 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,502	△ 3,525	1,023	
3 財務活動によるキャッシュ・フロー	429	△ 346	775	
資金増加額（又は減少額）	922	△ 790	1,712	
資金期首残高	4,379	5,169	△ 790	
資金期末残高	5,301	4,379	922	

【総括】

経営成績については、施設の維持管理費や固定資産除却費などの経費の大幅な増加がありましたが、水道事業全体では当年度純利益を計上することができました。しかし、家庭用の有収水量が減少し、前年度に比べて給水収益も減少しています。また、給水戸数については増加しているものの、一戸あたりの有収水量は減少しており、今後における水需要の増加は期待できない状況です。一方で、中長期経営計画(経営戦略)においては、今後、浄水場など大規模な施設整備や更新等による費用の増加が見込まれ、厳しい経営状況が予測されます。

このような中であっても、次世代に健全な施設を引き継ぎ、お客様に継続して安全・安心な水道水をお届けするために、より一層効率的な事業推進に取り組みつつ、持続可能な事業運営を実施してまいります。